

橋の寿命は愛で延びる

〳〵よろろづよ〳〵まで続け萬代橋

日本の橋梁技術の粋を集めて建設され、架橋の1929（昭和4）年から現代に至るまで新潟の交通の要であった三代目萬代橋は2004（平成16）年、国道の橋梁として、東京・日本橋に続く2例目の重要文化財に指定されました。周辺市町村と合併して政令市となった新・新潟市誕生からおよそ10年。今も萬代橋は市民が誇るふるさととのシンボルとして、あり続けています。



上流側から見た萬代橋と柳都大橋。2本の美しい橋が並ぶ水辺の景観は新潟市民の誇り

萬代橋とにいがた
いつまでも

全国に誇る「新潟の宝」に

萬代橋は節目ごとにその価値を再認識し広く知ってもらうためのさまざまな取り組みが市民参加で行われてきました。30年前の萬代橋100周年を機にライトアップや萬代橋フェスティバルがスタートし、市民から広く募金を集めて実施したライトアップは当時の建設大臣から「手づくり郷土賞」を受賞。1999（平成11）年の三代目萬代橋竣工70周年を節目として、萬代橋を中心に据えた新潟市のまちづくりを考える市民の会合が盛んになりました。市民イベントの萬代橋誕生祭がスタート（2003年）したのもこの時期です。このような中、市民から「萬代橋を重要文化財に」という声が上がります。

萬代橋生かしたまちづくり着々

2004（平成16）年の萬代橋を復元する工事と同時に、自転車歩行者道には歩行者のために融雪装置、自転車通行のために水はけの良いアスファルトが設置され、快適さが増えました。さらに柳都大橋ができたことにより、萬代橋の自動車交通量がピーク時のおよそ半分になり渋滞が緩和され、市街中心部でより確実な公共交通への環境が整います。自動車だけでなく人を中心としたまちづくりへ変わりつつあります。

萬代橋の未来

現在の萬代橋が完成した87年前、工事を統括した正子重三は「橋の寿命は大切にすると如何によつて非常な差異があるものである」とし「市民一致協力してこれを愛し合い誇り合うようにして貰いたいと思う」と述べています。これからも萬代橋を愛することで、萬代橋は現役の重要文化財として「よろづよ」まで続き、新潟のまちづくりに寄与することにつながります。

教材になった萬代橋



宮浦中学生による萬代橋観光ガイド。例年8月の萬代橋誕生祭に参加しガイド活動をしています

新潟市内の多くの小中学生が萬代橋の歴史や役割について、総合学習などで学んでいるのを知っていますか？新潟が市ではなく町だった頃からも歩んできた萬代橋は、新潟を知る入り口の一つでもあります。中でも萬代橋が校区にある宮浦中学校では生徒たちが「観光ガイド委員会」をつくり、萬代橋の歴史やデザインを学んでいます。自ら観光ガイドを務める市民はもとより外国から訪れた人にも萬代橋をより深く知ってもらおう取り組みを行っています。

「万代橋下流橋」と長らく仮称された柳都大橋は、市民の愛着と歴史ある萬代橋に隣接する兄弟橋として構想され、萬代橋と調和すると同時に再開発中の万代島との景観とも調和するという、デザイン面で高いハードルが課されていました。1994（平成6）年に実施した市民アンケートを参考にデザイン委員会で検討が



重ねられ、2000（平成12）年にデザインを発表。環境と調和するシンプルなデザインと伸びやかなアーチ、その曲線を美しく保つために国内橋梁では初めて採用したファインセラミック仕上げなどを特長としています。

そして同年、橋の名称を募集すると全国から1万通を超える応募がありました。選考委員会で選ばれたのが「柳都」。かつての新潟がそう呼ばれていただけでなく、柳都という言葉の響きがしなやかで、未来に伸びる新潟の都市像を象徴するというのが選考理由です。開通は2002（平成14）年5月19日。それに先だって行われた柳都大橋誕生祭にはおよそ3万人の市民が詰めかけ、関心の高さを示しました。

にいがた みらコラム

街と暮らしを支え続けるために



三代目萬代橋は今年87歳。「萬代橋みがき」では、地元小学生が中心となって萬代橋の清掃を行いました。橋に関心を持ち、大切に扱うことが架橋当時と変わらない萬代橋の姿と強度を保つことにつながります。

〈お知らせ〉

萬代橋130周年事業

初代萬代橋架橋から130年を迎える11月にむけて、新潟県、新潟市、新潟日報社では実行委員会を組織し、写真コンテスト、シンポジウムなどの記念事業を実施しています。詳しくは、ホームページをご確認ください。

